

ほけんだより

心もからだも元気いっぱい

令和 2年 12月 11日
第20号 神石小学校

冬のコロナ対策…流行をおさえる行動を！

～「学校の新しい生活様式」2020.12.3 Ver.5より～

12月も中旬に入り、風の冷たさが身にしみる頃となりました。神石小学校の子どもたちは、少し体調を崩して欠席する児童は時々みられますが、比較的元気な毎日を送っています。

先週と今週にかけて、2回目のコロナウイルス予防の振り返りを行いました。今回は、コロナウイルスについて「知る」「予防する」「正しく向き合う」ことを中心に学習をおこないました。

今、社会では、コロナウイルスへの誤解、偏見、差別が大きな社会問題になっています。「1人1人が自分の問題として受け止める」「感染症を正しく知り、誤った情報にまどわされない」「人の立場になって考え行動する」ことができるように、自分のためだけでなく、周りの人のことも考えた行動をし、みんなであたたかい地域社会を築いていきましょう。

3密…×

①密閉(換気の徹底)

◆冬季でも、可能な限り、常時換気につとめましょう。

◆暖かい服装を心がけることが大切。

※空気が乾燥し、飛沫が飛びやすくなることや、インフルエンザが流行する時期でもあるので、徹底して換気に取り組みましょう。

(いつも対角線上の窓を10cm～20cm程度開けておく)

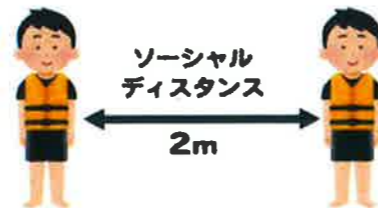
(難しい場合は、30分間に1回以上、休憩時間には窓を全開にする)

(室温が下がりにすぎないように、人が居ない空き教室の窓を開け、廊下を経由して、少し暖まった状態の新鮮な空気を、人の居る部屋に取り入れる2段階換気も気温変化を抑えるのに有効)



②密集(身体的距離の確保)

◆人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける。



③密接(マスクの着用)

◆いつでもマスク(身体的距離が保てないとき)

※校舎内では必ずマスクを呼びかけています。

◆マスクの表面には触れない。

※マスクの着用により、感染者と接する人のウイルス吸入量が減少することがわかっています。(布マスクを感染者が着用した場合に60～80%減少し、感染者と接する人が着用した場合に20～40%減少)



マスクなしの場面が危険!

3密と大声のリスク

飛沫感染や接触感染に加えて…

マイクロ飛沫感染(エアロゾル感染)が起こりやすい!

大声で話したり、歌を歌ったりすると、マイクロ飛沫(100分の1mm以下)と言われる細かい飛沫が発生し、部屋の中を20分ぐらい漂う。ウイルスを含んだマイクロ飛沫を吸い込むことで感染。



※感染リスクを減らせる場面をたくさんつくりましょう!

お口の川柳 入賞おめでとう!

夏休みの宿題で応募した、「お口の川柳」について、先日、町内での審査があり、神石小学校では6名の児童が入賞しました。



《小学校低学年の部》

最優秀賞

3年 横山璃子さん 『マスクとり あなたにみせたい 元気なは』

佳作

2年 小塩健太くん 『まけないぞ コロナと虫ばを やっつけろ』

佳作

3年 富永哲平くん 『子どものは いままでおせわに になりました』

《小学校高学年の部》

優秀賞

5年 福本瑛汰くん 『いつまでも 続くけんこう 歯の力』

佳作

4年 谷川菜々華さん 『歯がぬけて とうもろこしを はめた夏』

佳作

6年 小塩優花さん 『むしばゼロ マスクにかくれた 自慢の歯』